

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きりしま子ども発達支援センター 実樹 放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 28日	～	令和7年 12月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	74	(回答者数)
			38
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 28日	～	令和7年 12月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)
			5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 12月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で計画書の作成や支援内容を考えている。	必要に応じて個別で専門職による評価を行い、保護者と共有している。保護者や本人のニーズや課題をスタッフで共有し、対応策や療育内容の見直しを行っている。	個別での保護者との面談を計画的に行う事で、保護者との課題や目標の見直しや、今後の療育や地域移行に向けての取り組みなどを行っているようにしたい。
2	活動プログラムの立案は担当者で行うが、長期休みのイベントや長い時間での療育の活動(調理、外出、買い物、公共交通機関利用の体験など)をスタッフで考えたり活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	集団療育では、年齢や利用者の必要なスキルを含めて活動内容の検討等を行っている。長期休みを利用しながら外出や買い物活動など普通の療育ではできないような活動を取り入れたり、生活に沿った課題設定を行えるようにしている。	今後、余暇活動をメインに好きな物や好きな事などを見つけるきっかけ作り等を行っていく事と、自立に向けての生活スキルの向上を目指していく。
3	保護者や本人のニーズに合わせて、個別療育と小集団療育などを個々に合わせて行う事が出来る。その中で地域での生活(終了)を目指し、段階を経て地域への移行を行っている。	保護者に定期的にモニタリングを行い、ニーズを確認後に必要な療育や活動内容などを検討している。地域移行(終了)を目標に保護者や学校と連携を行いながら半年のお休みを取り入れたり(地域や学校、家庭での支援をもらいながら生活を送ってみる)、保育・教育等移行支援に取り組んでいる。	保護者とのモニタリングや面談を定期的に行い、安心して地域の中で過ごせるように支援していく。その他、学校への訪問や連携を更に密に行いながら、保育所等訪問支援事業の利用なども含めて地域移行を目指していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がとれていない	当事業所の利用児において、個々の事例での連携や交流等を行いたいと感じるが、設定の難しさもあり実施できていない。	地域の祭りやイベントへの参加を意識して行く。まずは、地域の中で当事業所を知ってもらい情報発信を行っていくようにしていく。
2	保護者同士の交流の機会が少ない家族への支援や、きょうだい向けのイベントの開催等、きょうだい同士の交流の機会が設けられていない。	個別での療育や小集団療育の利用も月2回程度と、保護者同士での関わりが中々難しい状況である。きょうだい向けのイベントなどは絵画教室への参加をしてもらうなどはあったが今年度は企画できていない。	小集団療育の時間を使っでの保護者との交流や、保護者向けの学習会の開催、きょうだいも含めて交流ができるイベントの開催などを年間で計画的に行えるようにしていく事を検討する。
3	支援開始前、支援終了後に職員間で話し合いを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認したり、その日行われた支援の振り返りを行って気付いた点等を共有などが難しい時がある。	各スタッフがそれぞれ活動内容を年間で考えているが、その日の活動内容に関しては簡単な打ち合わせは行っている。毎回密に打ち合わせや役割分担の確認が取れていない。	時間を設定して、打ち合わせや振り返りが行えるようにスタッフの役割分担やそれぞれの課題などを確認しあう事を行っていきながら、療育の質の向上を目指していく必要がある。